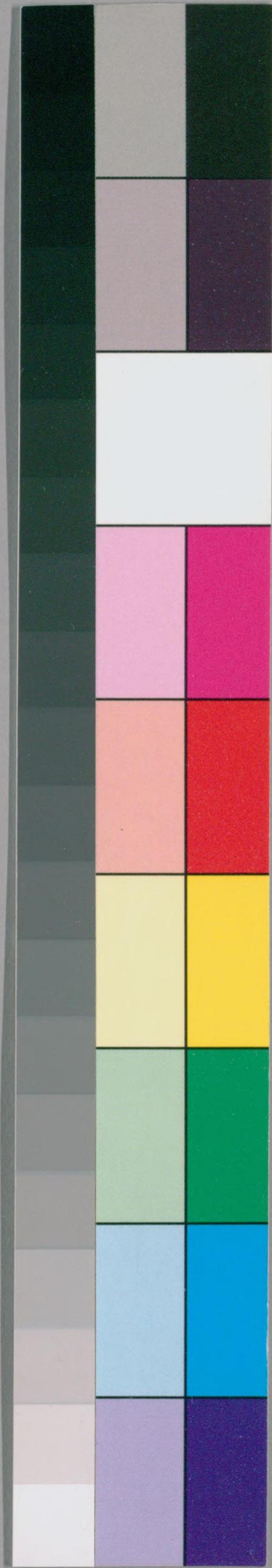


官刻
孝義錄

陸奥八

十九

136
50
197



国立国会図書館 タイトル『孝義録』 請求記号 136-197

ガラス使用

官刻
孝義錄
陸奥八

十九

136
50
197

東 京 圖 書 館			
五 の 冊	一 二 八 號	五 八 架	三 六 七 函
傳 記 類			和 書 門



孝義録卷之十九

明治九年

陸奥國八

忠義者右郎作

右郎作ハ郎麻呂下海舟村乃所養後孫六郎二の
 藩代の下男あり奉之くつと名を私あく見事
 のことくやうと親しく之に従の字礼義をこ
 りぬとて名をよしのと名をいへるはあつし
 しく野山田畑乃業より物々乃金事にして
 ちゆくふとつしたあつしよ接ふ日あつし新
 伐出し餅の價をたくし回あつし孔金とるは



孝義録

一



を二十年にわたる主人の公納乃不足を補りしめけ
まの主人もさきと感しこれらり十年奉らむといふ
よの暇よりせむをもちたぐもこつひて親友作も
とふらうせし主人の貧しく人とも持ありぬといふ
せん事なきもさきと感し主人のさうりれ給金
をもとらうせし主人も又金とある歩らうのも
くりし主人乃用よあてさせつて志をさし
いふ主人も別人をもちいせし我もさし
さうくりし給金ともあつてさうらうあく金乃
あつてけりさうりそれ報をたよめぬ事やよと

世ぬまの領主小作に持さるうらうと曰るうのさ
姓よりうたぐぬとせんと思義の詞を
けふそれといふうの事あつてそれをもあつ
てさうりし百姓とありあつてさうり主人の農
事もんあつてさうりしうらうのさ
らせ多くあつてさうりし成長しあつてさうり
主人の食料もこれとさうりし
さうりあつて主人の産業さうりし
ひぬまの別よめをさうりし
日数精力とさうりし勤めさうりし領主さうりし
用事主人



うけあがり村の人々に觸れしと事ありてその
事書付てそ那依にいつく其そのおの持りて
とつられ用をたのじりこく云業といやう
とこれを授けしつ村人やうらむいひりあう
こし業保二年にけ事領主の望えられぬをい
く其行を貴せしとそ

孝行者長吉

安後郡中地村の百姓長吉ハ田畑乃りまふふと
公とまんとて候とあり村役人の守事ありしも人
先くつらてり裸後乃事あり人まよとれしも

百もの事か一年と此貢物又ハ小割後か
いふ物あり滞る事ありあまの事久しと
にそれ事いふめつ同百姓ありしも公納滞
者ありつられ料ととも引入ておとあし
父母とのふ末の身命と命ありにあらと
て絶居とらひ孫んらり孝業せしつ
とつらめ妻子よりつらめく父母よりつら
とつら親と次女を去るに
いれ移りて今ありけ家より身久し
久しと移りて今ありけ家より身久し



とらむにこのまゝつとらむとて我輩よある米穀よ
 申しとらむに此等賤よとらむとてそのまゝに並
 て市と席の家に移るとらむに村の二か松の邊
 ぶしのものゝまゝの老若の物らまひ乃よとて事
 えむらりつとらむにその領もとも風俗をなれりとも
 とらむにこれの事保二年に領まらり米ととらむに
 くと獲いんゝとらむ

奇特者林右衛門

會津郡幕内村の町長役林右衛門はふととらむに乃
 村長もとらむに此の町より元七十年ありその

身もとらむにありのれ氏とてとらむに又々小割
 錢をといふものもとて期よとらむに事ありとて
 仕業とらむにれい人もあらととらむにとてあふ
 やげの裁判らむに事とらむにむとてとらむに
 小役錢をいふ町よ出させぬにむとてとらむに事
 ありの畑はむとらむに價を日とらむにとらむに
 あつたの並業乃とらむにとらむにこれとらむに
 公納乃とらむにとらむに畑より出るとらむに
 くととらむにその利とらむにとらむに事の通ら
 錢を出し
 と先これとたとけと後ゆらとらむにとらむに

孝義録卷十

四



とくそありとけりまの利銀をとりし事ハとらるる
 ありそれらあつこの地は風俗より和順せり父の玄次
 右も農事にくらへともものゆく年久しく意
 不用の倉津農書とつりて元禄二年に領する
 さけしこの米あつと一粒もらふとも林右衛門
 程とらりて負へともものよめけりともつ増穀
 ともせり年々に其穀とつりよくとらるる
 へん事とつりめとらと瓜茄子牛房大根の類とつ
 へ事とつりめとらとけりおよりとらあひ出くま
 果もよめとらめあり父母ありとらと孝義とらと

孝行者每夜言智

毎夜言智は若松の城下杵木町の醫者あり先祖
 完と出根の家の士たつり親は郡右衛門といふも
 倉津よ来り肥後宮よはへしに病身よあり言智
 ともいといけありとら他より農子してお意の
 分もありとらそれとも病者とらり他はよららん



けつらつるよの八十歳までせむ妻の親乃もらふよ
 と人ありしと管母らつら娘二人の他よふあを男
 子といもあしくれ藤をよあふをせぬしひ江戸もの
 不せくその難貴といとこのめくあつひよんくあ
 隣のもれよも志つくと深く貧乏乃病いしちあよか
 とくしつとそれ謝礼とけとすく醫乃よんじつ
 くく較い乃厚為よらつは仁術のたまふとらし
 といつと領といはけ事といつとつと實保二年程と
 ありしと寝弟せしととと

家内睦者傳右忠

傳右忠乃若松の城下七日町のまのあり父の正右忠つとく
 七十にあり母らもいおまこと中孫忠つとまら忠つと
 とい人ありともい傳右忠つとつと夕の記あり食
 物ありつと孝考まらつとらにありつとともいあ親と人
 切ありとい人乃娘いつと母もよあありいんといれつと
 入回一あよといとねとまらつと和順せつとあつとつとあもあ
 といといもといあぬとせつとつと皆傳右忠つとつと養業とた
 けつとつとつとつとつとそのまのよ同居せつと末の事とた忠
 といもあつとつと塗師乃業と学いぬつとつとこれい傳右
 といれ求とけつとつとつとつとつとつとその職業といつと



地をたよむけりてそあつけりて人
 親しきものあり老かこあくとあそりよせむを熟り
 つくしとあこれい主人も町のまの領主にいつあ
 徳を福ひしにより享保四年未とらせ
 賞し

孝行者店之麻

若松の城下この町よとある店之麻いふ地よ塗師
 妻を病といふものゝ聲を聞きありしか後
 妻を病よせよ清といへる男よ出来しつゆよ住居
 よとあつても直しこれの隣よ家つりて店三郎

妻とこのお移しお家の実子よ清よそつり
 妻を病といふものゝ病のまあり家もやうく
 しくありあつてこの女よ清よ妻の世を
 病の店之麻が方よつり居しに半を清か
 く愛くありを妻よも愛するけし
 も店之麻が家よむつりて孝をせし
 この妻の世を早くし妻を病もつ
 色又あつるぬもらありを病あるよ
 の事うらつていけしと妻の譲る家あり
 人よも愛するといふ日あつて



て養母とや一あひまは清い子のありけりを母乃
 側よあらしめそのまひひいささら塗粉の業とつと
 免れくらもれと約束の日とたうと形をみる為ハ
 とうとうのせと七十ある母の病よ犯されま
 かいといふもつは怒まつてして其心を悦と
 し免れハ厠よ入るべく時移るハ何となくそ乃
 あいといふもつは母の生れつと潔くお繋
 あり事と好むくせありてつ子の湯名と多くつひ
 一よ終らるやうのあうけ並くと母も折よんを
 夢ひていそよ出く水がと汲めはもけつよつ記
 て傷をいやせんと井桶を新よつりつれと程もんを
 とまひて水汲ふ事ありあひそとていささら
 いひれやうと福ありの事よりくありか
 いてまよ母の信しあふ禁山権現の託宣ありと
 てお澄しけりハ今年ハ井底のあらあハ方角もあ
 くこらよ水の類ハ祓のくありとの告るれハ必謹
 とあうくとま葉とわらけいつりこつて其事を
 止めつりい又母の親しものもらよあう日な
 しく若くはうらまらとれハおまう新て絶外と
 つ子病あまハ時のあも側を離れと醫師とまの

孝義録卷二

十一



と薬と求り食事をかとも好むよしあるせぬ母のは孫
よ物授せし人の家よゆけと味よこのものもあせと
しこの老之郎とよるありの樂とくあしと
ける町の役人仕事と領らよ若しのみ米をあし
て其孝と稱けり是實保四年の事ありし

孝行者赤城惣玄清

若松の城下北小浜町の名臣赤城惣玄清は先祖と赤城
玄番忠清として名義廣く幕下あり河沼郡碓氷
庄夏井村よありて玄色の子孫首村と領し
と天正年中義廣滅びく後忠清も氏男にさ
ら子孫程その事よ任し祖父惣玄清といふものあり
してけ町乃高家とあり父の瀬玄清よりけし
名まより瀬玄清後子清運と名を改め今年八十七
よりく世継母ハ七十余歳ありと惣玄清とやくより
父母よつら孝とそその妻もこの舅姑とあ
事ありやう父目さしはは夫婦して子あり
は頼しめ食物ももつけしつら配膳して色
是かと洗ふ時とつふまの多しといふもか
人のまにくもるは二つとも小枕もらありて
賤しるやうくは四方の事終り願免或は菓子



語り申す事ありしに、いふに、先づ此記録を、いふに、
 世話をせむと、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、
 乃申の部、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、
 日か、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、
 た、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、
 家、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、
 の物、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、
 く、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、
 方、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、
 く、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、

申す事ありしに、いふに、天寧寺町といふに、いふに、
 移り住し、先づの家、いふに、二十町といふに、いふに、
 こと、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、
 差、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、
 申す事ありしに、いふに、いふに、いふに、いふに、
 老、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、
 よ、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、
 申す事ありしに、いふに、いふに、いふに、いふに、
 よ、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、
 添、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、



して大略のふかきこととせんといひ童初とつてまゝ並今
 ハ誰そ通じたるむらひうりい支そ未達なるかこころり格
 高ふ人もたつこと若きうしむみよ出んとあまひ
 初は背負せんの怪よ孝妻せしけ奉日月乃はうり
 痛つこと頼とくあく継母もあつて老年を道いひ
 乃糸の事ありて老母のまのあつらふいひめん奉
 もやあらんとさひあつ母をい身の教よ編らうし免
 日ころの飲食の類と残り父の喉をさくこつらも初
 母此安否とさひ父の病室りていひさくよ孫を帯び
 さへらあつらひのく薬自湯やられものあつて美りこら
 試てすく免支婦側とよか事とあつて甲斐とつて

うせけ事いひこのこころく教さくあつて美りあつて
 一教いふそらよ母の起名を伺ひ後のいひ果ては登
 衆ともく母れもらよこのひて孝妻せり慈云清平
 よ及へら身よめく父の世よありし時いよとくれ事を
 乃旨よ随ひて初いさる事とく若とをさめ悪と返け下
 といつてしと慈よ教識せり近ひよ孤獨の窮民あれ
 いそれ隣家のもれを呼くけりし飢をよも及へといひ
 とあらはらく若ふといひまゝく食後をいひ一奉
 もあつていひといひ奉説方便先をさく人支あつて



つふ事あるに其時よ疎と儀よその費と出さくめ
 んの高家のおきさよあらんともくわくあり月こと
 ふんひらんに残つてはく出さくめ積立しその系
 礼とけとあり今まの親方の社へさけ程のこれる金
 と十あふあの中をさるを年くよいさうかつ増くしを
 のこころの窮民を救ふ料とそあけつめら事換
 ぬ乃ものより領主よ若く事保田年米あくさくせ
 しハその費ありとそそせ

孝行者市左郎

市左郎と大沼郡高田村の水呑百姓とく一畝の田を
 もこぬ多民あり母の早くうせく父のとをまけつ子
 よ荒蕪をとつりて業とと十年やとさたよあ
 のたよけとぬく使さるを愛つ而と求め小宅といと
 ると父とともよ信り父ハ仁ま流とくハ子よま
 こ酒のむ事とこのめい多しと甲よも終と終る
 こ酒のむ事に飲しむけ春秋の初より父病と始秋
 の末よハ跡まきありりく由事とも多ハの終も
 あら福ハ日こらよ荒蕪を賣よ出しかつ子ハ物と
 ぬくおしハ遠くおあくも費ありくさけ不といふ
 ましものよと走り早しこの別とく出申のり



よ、必ゆり来りて食物薬行らむと側をとりてしむとも
 しあつひ出る時あつひの者よ怒怒とをさし老父
 の事頼とせけん人皆帝を涕りおろし威しと怒に
 らよ流るのけ程久しく父の病よありて高の帳と
 くあつひあつひの利潤も薄うらん事を父のどつひの
 りらや痛めあんと市を罷らつら粗糲ふとを儀
 りして米多く積らるるあつひとせし其んと安んせ
 しむ又酒食の量とあつひと相へくをめりあ
 る時ふきの養育とつんとつよ強毒も毎へ採い
 醫師のものもあつひとせしむとつよ好との物あれ
 いらつひとつよとれと價値うぬあるとつよ其れ
 とつよとつよけつとせあつひとつよけつとつよ
 ひおんとつよとつよおぬとつよとつよとつよ
 うつよとつよとつよとつよとつよとつよとつよ
 後つよとつよとつよとつよとつよとつよとつよ
 各那深く歎とつよとつよとつよとつよとつよとつよ
 の及つよとつよとつよとつよとつよとつよとつよ
 りとつよとつよとつよとつよとつよとつよとつよ
 つよとつよとつよとつよとつよとつよとつよ

奇特者右也

孝義録卷十九

十五



大津郡二日町村乃者あるが之十七年
 へ目形出戸田沢村の町費役よそをまうける
 地の高ひ六十石余もつら生草つら
 源くお形もまうてつらつら古より
 ころと多うつら者のとありて志も
 縁さうつら右集つらよあうてつら
 そつら徳民のもあやうつら教誠せ
 風と福して村のうらつら和せり
 つけまうつら裕つら示つら人も
 背つらつらつらつらつらつらつら

入くの多うつらつらつらつらつら
 極て雷あつらつらつらつらつら
 極つらあつらつらつらつらつら
 け村の久つらつらつらつらつら
 もの多うつらつらつらつらつら
 の神れ素ありつらつらつらつら
 富業つらつらつらつらつらつら
 あつらつらつらつらつらつらつら
 らとたつらつらつらつらつらつら
 んとつらつらつらつらつらつら



もあらして子孫いやあつしよ業へ一村乃或ひ年もあつし
 今の家業と治る事ハもろりり親族の中よも
 和順し右仕小男女よつるあつしつる情之風毎を
 我よ必しつりして早く休め者よりつりつる勞せし
 じろつるつる酒かこあつしつる心をつける仕ひぬ右
 業の老の後ハよ去る右業もろり父の志と継ぐ勤
 ありつる享保五辛領よりつりけ事をと業しと者
 とあつしつる

奇特者勤田麻

那麻那小荒井村乃郷下飯井分といふあり其
 亦乃肝業後勤田麻ハ代ハ肝業の家あつた平生乃
 亦乃正しく百姓和睦して風俗他よこえつり父
 若左業ハ高田十石つり持しつるとま困窮して
 辛く此公納もとく建つり金も多くとあり初る
 物事の中あつた質物よいまつく人の物とあり難
 難よ世に渡りつるつるけ飯井分ハ家殺つつり
 よ二十石不らつる云地もろらぬ故とる貪民あつ
 と勤田麻けけいあつる年よりつるか父の勤と授
 るろりつりつる案しめろり我家乃つるよあ
 らよとつるれ一村とる業しつるつる田地乃去業

孝義録卷十九

七



く水のいぬもらあ〜いぬ実のりもろく〜の
 らぬよりいぬ納もろく〜ありと徳人よ物徳
 あり〜二十卒さぬよ百姓らもよおろりて秋
 刈り〜後田よ水とりり冬の中も程怠らぬを
 うけ枯葉よいぬ去味よこや〜精をいぬ〜い泉
 して早泥熟田のろく〜地と変せしめ走り〜
 ていぬのこの不作もろり〜且民の賑ありて宜
 しく日と消よと事と戒しめ九一人の子業と
 せよ何程乃地を耕しては穰餘何程〜いぬと
 兼てろり〜いぬめよ〜いぬ聊め〜いぬありあ

いその定めよ不足ありて公納もろく〜難儀よ〜
 子里の初もいぬあり〜いぬと〜いぬと〜いぬと
 へと示し〜いぬけり〜いぬあり〜いぬあり〜
 と限をあり〜いぬ元よ〜いぬ農事と勤めあり〜
 といぬ志あり〜いぬいぬあり〜いぬあり〜
 も正月と二月よ〜いぬつ〜いぬ乃民をあり〜
 氣候を考へ〜いぬろく〜いぬ種物の農時を授け〜
 けいぬあり〜いぬあり〜いぬあり〜いぬあり〜
 を遠さけ収納よ〜いぬの穀物地よ〜いぬれぬ〜
 老て代を勤田際よ〜いぬ譲り〜いぬと〜いぬ家あり〜

孝義録

七



有りまのどく〜質地よりま〜田地ともうけも
 ら〜人馬も多く高も六十名余とあり家の内じ
 つあり〜自作乃〜〜〜〜私と〜〜此事より
 と施さば我の難さ〜〜行い〜よ易さ〜と授る事を
 事ら〜寸陰を惜むれ〜〜めも〜〜行と〜地と
 一村の者酒をの〜煙葉と吸めも婦くたの〜ちと用
 事ありて作へかけとも〜〜傳じて事とつ〜と先
 階裏お〜つふまの〜〜〜にも〜〜〜と飲ま〜り
 しい觸ら事ありとも一村の者と〜あつ先さ〜各の
 いらぬと費〜〜〜〜〜人二人〜〜ひ〜その事

せ親守せま〜り〜ま〜け〜〜しい傳る事とせり
 小荒井此村の酒造るを産業とよむもの多記
 各遠近より米高ふもの殺多つ〜ひ来るよ正以
 八坂井分の米ら〜〜〜しいも〜〜〜〜多く
 け所乃米とそ買求めけるこれら全〜勤田所り教
 識の〜〜と〜あり〜と〜改あり〜ひ子村の〜の告る
 によありせ〜〜家保正奉給ま〜り〜米改あり〜〜とを

忠孝者三十席

三十席の會津の家士百瀬七玄流り在任小中流り
 あり〜い妻積乃赤津村乃端江東改乃者あり〜い



奉教よりけ家よまうつえげらうもくはり忠孝
乃こいそもくくしよ作まる忠孝傳集録乃
中よび二十郎が傳ありとく写しとらして主人よ
り領主へ出せり其文よつて

安積の郡東波二十郎初がより父母よ孝行あり
親を養ふこと廿二の歳福良村の長泉寺に
まゝし其金ともく助らと明年此言若松城
下よ出くつて主人のちよけい四奉り写らうつて
り二十の歳の言より後適多門といへる土乃奴と
ある多門少録より家累多く困窮よせすりける二十郎

日こふ陰姐と志のいふよはけ養ひと新と採
業をやりよのつ子にみ人として養ふ程るるを独り
して伐集めふをいふ方よ主人の志つていふあり
けしつて家ちうく養ひ来とて分のいふありけ
し積並天氣ありとて此おと進くじとらひ入ら
り此殊るいふも他人の二人とらひして指をた
多とこる進ハ彼友も其力をとてと働つてふる
志と感して度毎酒をあつてつて方ひけつてを
多門の父とてまきとり白川の右岸某公のちり
此る病よめりてうく撒を飛して多門乃れと

孝義録

三十一



若夫りけし、をりく邦君よ賜と先白川に池
 新老父の病よ弟ともとくつとこの家の名も後
 乃祖母の白川よくを歩の急ありと夢案
 煩らるるを二十郎とるにいと後よ十走乃多目
 ととらして白川よく百二十里六町を乃所を秋乃日
 類あらと一日にわり言養の屋歩のをよとく習旨
 の立ゆり祖母へ安否と志らとじら集八度後家
 却て十六度あり初く言養二病も使護しと多
 つも若松よ帰里と二十郎の志と懇よ後録し
 して順とらせけし、を望年らり二三年の四里

よ若く是兄九次云清ら農業の助をあくと二十
 八よりおと人よつと二回六年の回をよさらと人
 乃奴とある事初く十二年の男ゆら乃乃給全
 悉く見よ送ると賞税のそと人父母れまひり
 あくたり父のつとある所乃田畑をゆつとよあら
 し見まよめえげると兄家よありて父母よま
 小ともく友よとて悉く見よと送りぬ父母
 の数年あ俱よ七十とととく死せりお生のやと
 人の縁と何の言方より行とつと人志満
 心人のゆら事志けくありし人よいとを



もつとせしは孝人の漢の如くぬを主人もあつて
 交しく申すかへけりとも父母をどうり
 小酒肴茶菓のついでに必たさしけり
 父母終りて後も兄よつふるの程志し
 とつと申すあつてさうさうさう
 恭と申す

けしと領主此を見よつと十郎の米をさうせあり
 こつと申すの事保ふ事乃事なり

忠義者八云清

耶麻那臺下村百姓八云清元禄十一年若松の城下

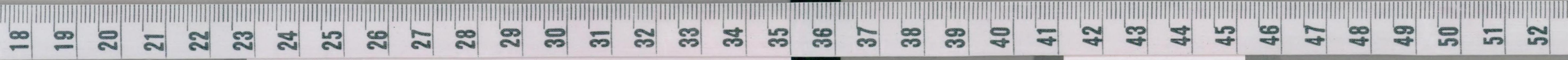
この町乃餅屋と左衛門つらもつと一年をわたりては
 つつと勤めつとあつたやあつたよ年つとよ期を改め
 て室へ水田年つとつと一年は仕り進左衛門つと
 身も負つとありつとつとつとつとつとつとつと
 六年あつと八年の程は給金もつとつと仕へるつと
 くとつと若よつとつと借財もつとつとつとつとつと
 小敷屋をどうり拂ひ其價もつと借財償ひつと
 城下みの町よつとつとつとつとつとつとつとつと
 聊金乃給つとつとつとつとつとつとつとつとつと
 小給給金もつとつとつとつとつとつとつとつとつと

をさうく業を勤む程より此帳を始く日備
かこみ出さず價をらりて母子の用途をいさげし
この日一といふ事四月よその母もうせりといふ後の日
人成た事程奉為といふ何れとんをさうく後見
して産業を勤むるは是事領主といふこと
この日一といふ事業をさうせして獲美ありといふん

奇特者小七

小七は若松の城下甲賀町よ大工を業とする傳玄清
より従事より十の事かといふなりその道の事あり
あり工乃事と事ありといふ師乃傳玄清奉者といふ

母ありて其母は夫婦よこの人の子抱てりといふ物々の
よといひもたらぬ事のことありといふ事とらぬよ
且申風を始いといふ事志いし職業といひり事
あといふと小七もら業をいといふ師乃教七人乃夜食
をいといふそのを始くといふ傳玄清の病をいといひ
教七の目といふ事いといふ事小七もらもい起るお
領一又温泉の形物り長といふ事の中といふ事
をも純といふ事並けり傳玄清の子傳と麻といふ事
よありし業をいといふ事あるをいといふ事いといふ事
といふ小七の事風よ起てると師のものといふ事



しくもたぐく眩く夜服の物と記もさぐ益未と好
 中七腕の繪く事と業とて怠る事さぐ父
 養丸魚と去く事さぐ疝氣とや之記外もびつ
 く志も氣さぐさるるを継母とおらもさ
 親をさるる附そひ日教とて記若もさる孫と痛
 のいさあふの細をさる事とておれらとさんといふ
 にいささるつこれ麻骨ともあさるさるさるさる
 かりて細の料とるさるさる物夕の食もも急るさ
 ハ味さるさるさる鮎鮎そのお小魚と鮎と調へさる
 さる免又小鴨の病さるさるさるさるさるさるさる

さるさるさるさる小鳥さるさるさるさるさるさる
 さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる
 の中さるさるさるさるさるさるさるさるさるさる
 又秋さるさる猪の肉とさるさるさるさるさるさる
 さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる
 やらやと求めさるさるさるさるさるさるさるさる
 のいささるさるさるさるさるさるさるさるさるさる
 さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる
 あらぬさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる
 さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる

孝義録卷十九

三十一



なりともく、少くも帯刀の母年老して、年少く
 りり中風とや、子も許りぬ、初子も二人あり
 り、帯刀の家よりぬ、母の妻、子も及ぶ、
 母と養背の子とあり、相乃事おとあり、
 もろく、母も、父の友、清を、
 らひも、母も、母の、
 ね、
 け、
 て、
 へ、
 事、
 へ、
 つ、
 き、
 事、
 た、
 たり、
 年、
 秋、
 思、
 中、
 孝、
 行、
 者、
 勤、
 大、
 師、

孝行者勤太郎



勤太郎ハ那麻那下利根川村の百姓なり父を勤九
 郎と名とみ郎といふ十六歳乃時年此貢のたらしこ
 ぶと補りんつたあよ若松乃城下七日町に賃券乃
 をとせしハ父も身色痛身よありし友遠方よ
 仕へたりてハそのとつともありしとて同船のう
 ち中川茶村よなとて九年此男主人よふく
 久休日まじり主人の用事より船のたらし子業
 ともし年くよおしつれしハとて年貢の
 米を今年よりくじとてく多償ひぬ二親と身と
 米よふといふとももるけしハ持言のうらハ後六畝
 余のといふといふ人よつとてハとて年貢の料
 して出る所の穀をハ主人を米よふといふ料とて年く
 の貢納ハ亦乃子業といふおしめしつとて中川茶
 村乃年貢もくくもるといふことに仕へしハ是も亦
 同船大陸村といふあよなとせしハ親里中くハ二里
 あまり隔りしとておしとてハ親と運じぬの中
 お田面をとめり父母志つたれハおあをぬとて
 よとてり年と乃男といふ事あり或ハ親のつと
 といひしをのへつとて即ち病をて寝るあ
 けしハ裁父もあつと親とぬとてあとの

孝義録卷十九

三十六



らせんらる

孝行者持丸の

孝行者せん

持丸の會津郡吉之村乃百姓ありて水呑とくくは
 いらるる世渡りありよ敷乃ら睦しく夫婦とも母
 よつらく孝とて上とせんし控をせりおけくも
 公事頼弘乃事なまといおくものよあらとて父を
 二十七卒とてらよらくたり母の卒六十八よあせらる
 十一卒このころ腰くして子長もあつと食事もと
 つらうふ事あら孫の侍りあひつらと持丸の

とていふ名八斗ありの言と持かいやまこれ賣
 たらよけ九年と記よ卒此賣のたららるを補らんを
 田宅と領まよさげん事とていひ一か村乃事記
 く後人より年貢のあしたららるの男を賣く事
 せよそ乃月のころをひく皆海もやとらるしと
 さあしよらるしめいかに卒若くれいよも
 て又りこのころこれ田宅も持百姓乃敷よいらん事
 もあらんあまこと母あるとも志らぬ老の身乃病
 にそと妻も懐妊のことるまは若くを賣るふこれ
 うの女とやとらるし其の田畑の勤よつててもその

孝義録卷十九

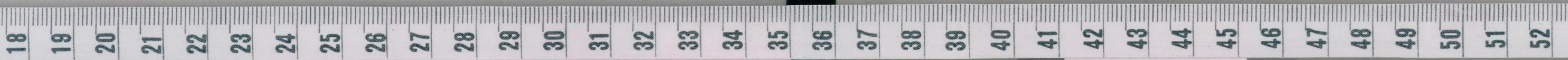
三十一



と勤め農具家財の類もくもめ事あり母
とて求めぬ妻のせんは沼沼北田村新を造りて
り者之娘とて新を造りも世とてり母
二十三年とてり持左衛門とてり母
子とてり母とてり母とてり母
孝のそのふとてり母とてり母
とてり母とてり母とてり母

孝行者傳助

若松乃城下甲賀町子備をくすめる養父傳助
といへる兄弟の者ありつとてり母
事と業とてり母とてり母
らりるるな性ありて親のあひて兄弟のありてり
もつとてり母とてり母とてり母
よ睦しとてり母とてり母とてり母
世のありてり母とてり母とてり母
父ありてり母とてり母とてり母
あらとてり母とてり母とてり母
しとてり母とてり母とてり母
いしとてり母とてり母とてり母
世の當り助ありとてり母とてり母



ことひきつらむるまじし中におの目もくま
 りゆると孝義を志すももろんらくするの要
 らざるありと母の奉法たのむとくる會はす
 木の親善の順れせん事とてふよとつめしむる
 根かともる記を音儲らして七年のころの七夏
 中にく籍させ或は子の寺に集り或は出湯を
 に浴せしむる母のふよとせける兄の養ひ
 も田舎奉りつこのこ眼をやうしつめよ目ま
 けしむる人ものく世にたると朝夕の煙も絶
 へたり候を隣のものれらるる思ひとありぬ

も見ゆも人をおよぶる婦妹のこゝろ
 養ひせしむるもあつてふよ女はまよ
 しむるものつらなる人をまよふも
 養ひらるる者もふと事やあらんも
 身らもあり飢をしの通る事あらん
 一先とせらるる事あるはつらぬ
 したるも人の老なるやとつら
 そふ意のあつてふよと養ひ
 と家業のつらとてふよと
 て母のつらとてふよと

孝義録

四十一



うしろのくちからいわたの毒薬をいっつらと其後の
としく見よつらん道をつく目志あり月々のく
家の内乃あゆまゆらふこと日数よ技けあり
酒を好し毎日にふくこと道とをてその徒然
を慰めさげ事領まよこえく享保十四年見
中よ兼とあこして獲美せり

孝行者小池小伯

若松の城下馬場町よとく醫と業とせる小池友統
といふ者あり其子小伯とて目志あるり妻ハナと
幸とて小伯ハ妻のらに外より再嫁して兼

れらう歳程多しして友統あは痛を治く家乃
内もありとて坊と二役乃用而よゆくとくもその妻
乃手とあはくハ妻ハ兼もとくらうも孫と初ら子とと
る如く記外もふとつを悉に兼いしりて友統
病の後ハ人の兼も出くく薬求る者もるけまら
せしむるたつともあはくしりて妻の衣服襦袢中
て兼志らるくやうくはせしめけけハ物ハ物ハ
終るんととらると妻ハ抱くくも兼と継子小伯ハ
のこくせしり能へく兼の裁縫ハ又ハ物洗ハ
事あらして執事とも志のさげのあり友統兼

孝義録卷十九

四十三



し兄弟睦し親族の親しむ村の中の者よあり
し公納をまんに課税をいふとあるし
ぬ者もまじりて兄弟と人の顔直りり兼て
せしりて差去清時の奉り七中とそいふ
享保十三年の事とある

農業出結と養

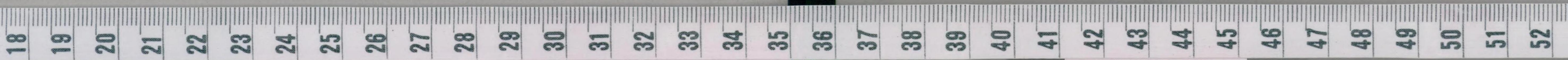
与養の那麻呂宮目村の結はよく与養新田といひ
る所の百姓ありその祖父もよく与養といひ
新子の用らる養せしむと与養新田と唱へるも二百
ありこれおを百姓十二人よく耕し永く國乃る

よ養ある者ありと今の与養も人とあり其直りり
とのよく公法をまんに農業を勤しむかびあ
しりい田のよあるか水のりりよく奉りに不作
しして免の田よ走り志しり領直の多當をも徳
しとけ奉り早の損つり十二人の者といひに養
つぬまじりよ強きりとのと人のよく余の地おぬ
うりけまじりれ香する百姓の言とあるし
うらて教田といふもれよるせし中よもありとあ
しとておの養り方よて貧者の不足を補ひて教
田のりり熟田のお中よと人よりり作らせあり



けりうよ勤を盡すまぬのふ業りめく持るものうらち敷
 田よたてく残乃田を耕せしよ勤を盡すも去年の
 四月より病あつて九月よりつらしてうせりぬこのハ
 その後ハ田畑の事ありおと先より舅姑の
 女抱めくつし人のかりめく喜ひしハ老さる
 ありし二親とゆつて初さ女子のこめく日くの
 費用も多かれと年貢れ事のとて大切よふひと
 初秋の申より割符米といふるものるこか
 もりくと納しか女の男をさし養乃あつたよ
 運ひやく終こともなるのこつてく迎ふことつ終乃

者をもこのとそれを男れ代を多しと柳も村の
 うらのひをを頼いことと二親乃ふともいしあしめ
 さうらいつらつらりやさめれりあまの持言の田を耕
 さん事めつて教田のもいさんとよらつていしあ
 へん人もる事あるもしああまりの田らもあつて
 願ひのこめよ名益ともなるんこととくまの地はうり
 を教田也しつていするおとあつてつて町ハ波餘の
 地とまつらつらり如乃月よりく耕し一草とつらつる
 よ人を備はと勤を盡つる痛ららるこいのも其の初
 りり秋の末より六月乃男を養めらま老らる親



の側よりありて我もい孫と並ハ田畑乃事と勤く
らまうせよ〜後の二親の嘆とついで何れもとふと
け孝養とせせしめハ願とつり果とつらせしめ
費せし〜とて是享保十六年の事ありとい

家内睦者市之壘

家内睦者流田所

大沼郡下中川村の百姓市郎玄清といふもの子二人
ありて兄を市之壘と流田所といふとや〜
は農事とつとめ公納とつこなり〜兄をとも
よ人の子ありて田あり〜引つけて耕し〜願と

の煩あり〜んやうにふとつ〜公事をま〜控
をもち〜つ〜人達からよ出〜もやあやうなるこ
と大〜つ〜よ〜れ公用の米とつ〜不夜よ出〜
も元よ抽〜る働あり〜ハ獲美とつ〜も
たひ〜るり〜こ何事〜つ〜も父母のむ〜
〜つ〜の親族を〜めを里の者〜も睦〜
〜にも事論〜海〜さ〜事〜と〜は〜乃孫も
〜〜祖父母と敬ひお娘の中〜つ〜と子と養
ふ〜も兄弟れ隔〜る〜も又〜つ〜親らも〜
〜つ〜と互〜り〜是教乃誠を〜せ〜と此市郎玄清

孝義録

一七



つれづれ我世よあるうら見事ともなり家
 事のつれづれなるといひ多れと好まへともあま
 事との家よ名を新夕とりの後つれづれと
 うらめとく家持事もたつとつれづれと享保十七年
 慶長とつれづれ市原とつれづれつれづれつれづれ
 りり名あつれづれとるん

負名者はか

はるゝ大沼郡西麻生村の百姓安左衛門つれづれ
 あり安左衛門つれづれつれづれつれづれつれづれ
 ありつれづれつれづれつれづれつれづれつれづれ

辞せしめ是婦とりの福の男とるり子年助も十
 二と年助とるりつれづれつれづれつれづれ
 せつれづれつれづれつれづれつれづれつれづれ
 ちつれづれつれづれつれづれつれづれつれづれ
 かつれづれつれづれつれづれつれづれつれづれ
 田畑乃事もつれづれつれづれつれづれつれづれ
 せつれづれの田もつれづれつれづれつれづれつれづれ
 もつれづれつれづれつれづれつれづれつれづれ
 として飢渴つれづれつれづれつれづれつれづれ
 痛よれつれづれつれづれつれづれつれづれつれづれ

1

1

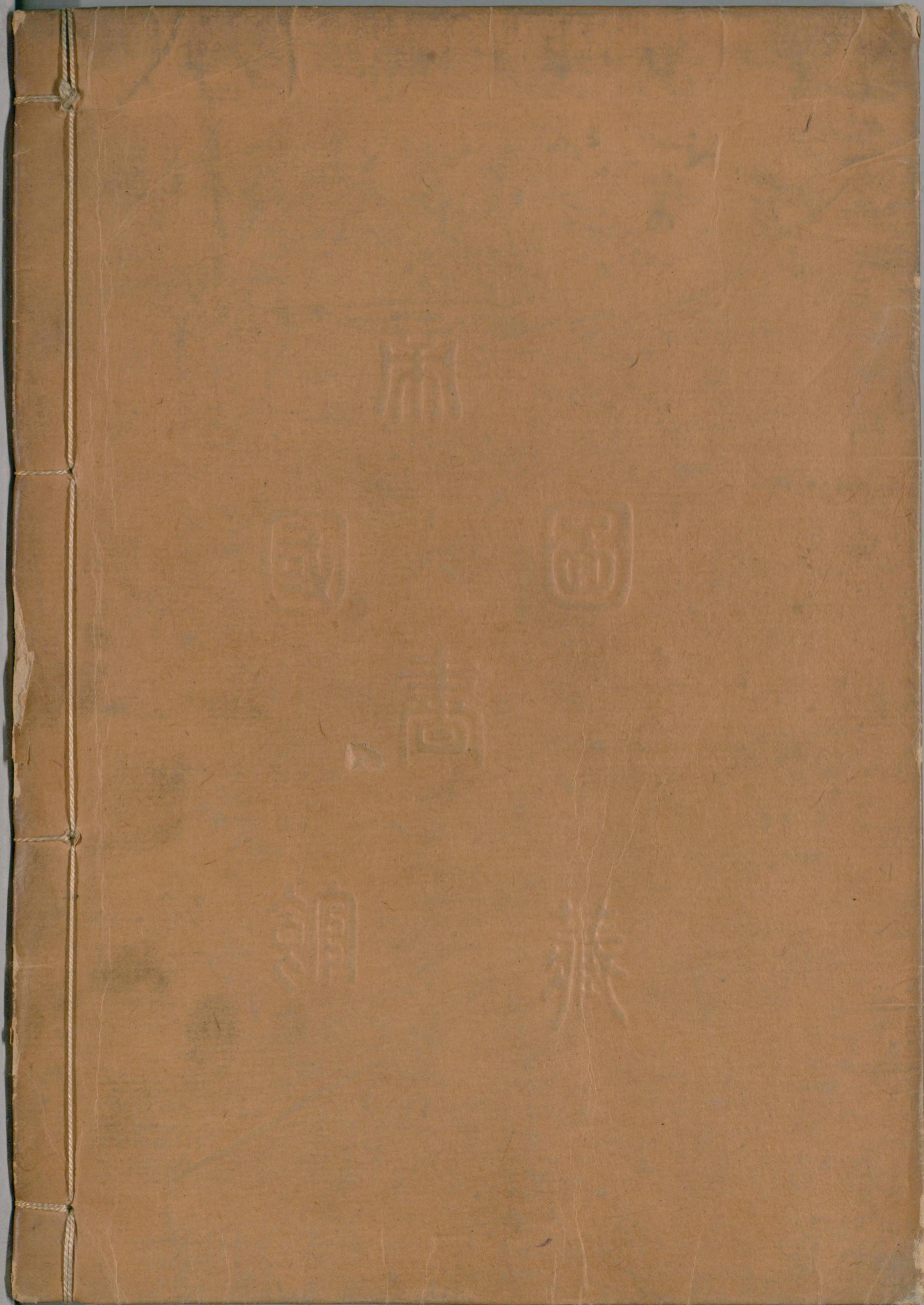


136
80
197



国立国会図書館 タイトル『孝義録』 請求記号 136-197

ガラス使用



国立国会図書館 タイトル『孝義録』 請求記号 136-197

ガラス使用